

猪熊弦一郎展

Genichiro Inokuma INOKUMA SAN

「いのくまけん」

こんな かたち あんな かたち



2017.7.8 sat → 8.27 sun

休館日=月曜日(7月17日は開館)、7月18日(火) 開館時間=午前10時~午後5時、土曜日・日曜日のみ~午後8時(入場は閉館の30分前まで)

観覧料=一般610(480)円、大高生410(320)円、中小生以下無料

* ()内は20名以上の団体料金 * 障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は半額 * リピーター割引: 観覧済みの有料観覧券提示により、団体料金(観覧日から1年、1名、1回限り有効)

主催=うらわ美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 特別協力=丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

協賛=ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

うらわ美術館
URAWA ART MUSEUM

「いのくまさん」猪熊弦一郎展

Genichiro Inokuma INOKUMA SAN

この展覧会は猪熊弦一郎とその作品を子どもたちに紹介するために作られた絵本『いのくまさん』から生まれました。

こどもの ころから
えが すきだった いのくまさん
おもしろい えを
いっぱい かいた

「いのくまさん」こと猪熊弦一郎(1902-93)は香川県生まれ、東京美術学校の藤島武二教室にて西洋画を学びました。その後、帝展で活躍しましたが、改組をきっかけに小磯良平らと新制作派協会を設立し、東京、パリ、ニューヨークと拠点を移しながら、晩年まで旺盛な制作活動を続けました。

つつい口ずさんでしまうような言葉で始まる詩は、詩人・谷川俊太郎がこの絵本のために書き下ろしたものです。初期人物像をはじめとする具象画から、渡米後の抽象画、そして具象抽象を超えた独自の表現へと展開してゆく猪熊の作品制作における変容の様子が、250字余りの平仮名によるシンプルな言葉で紡ぎ出され、頁に広がった作品と呼応しています。会場では絵本に沿って、猪熊作品とともに詩を添えて展示致します。

まるで絵本の中に入ったような会場の中で、創造の喜び、楽しさを感じてみませんか。



《二人の子供》1950年



《マドモアゼルM》1940年



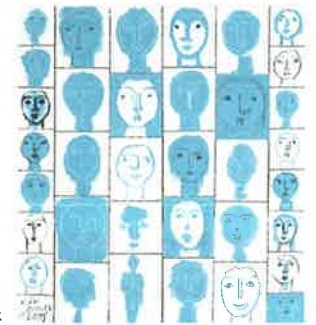
《題名不明》1956年
Photo: Takashi Homma



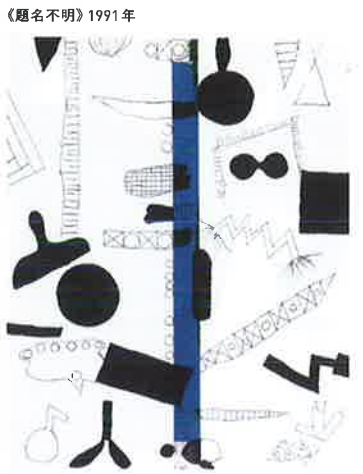
《題名不明》1987年



《題名不明》1992年

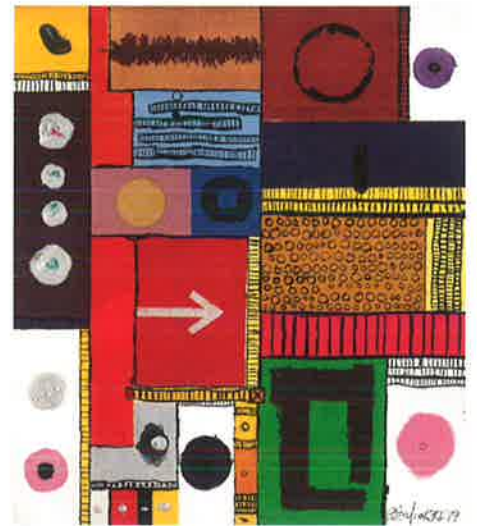


《顔35》1989年



《題名不明》1991年

《ニューヨーク九十五丁目の矢じるし》1979年



表面図版：(上から)《驚く可き風景(A)》1969年／《顔、犬、鳥、》1991年
作品はすべて©公益財団法人ミモカ美術振興財団
所蔵：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

このチラシは25,000部作成し、1部当たりの印刷経費は16円です。

関連事業

○創作コーナー ▶[ギャラリーD]

「なにつくる? ~いのくまさんは たのしいな~」

7月15日(土)~8月27日(日)

自由に工作したり、絵を描いたりできるコーナー。

※自由参加、参加無料。

○ギャラリートーク

7月22日(土)、8月20日(日) 各日午後2時~

当館学芸員による展覧会および作品解説。※自由参加、当日の観覧券が必要。

○図書館員とボランティアによる

絵本の読み聞かせ会 ▶[情報コーナー]

7月21日~8月27日の期間中、毎週火曜日・金曜日。

各回午後2時~(30分程度) 幼児、小学生を対象。

※自由参加、参加無料。

次回以降 開催展 「Musubu 本とアート：東京ーカリフォルニアーうらわ」(仮題) 9月12日~9月24日
「ここがみどころ スポットライト!うらわ美術館」11月18日~2018年1月14日



交通案内:

- 電車利用/JR京浜東北線、高崎線、宇都宮線、湘南新宿ライン、上野東京ラインで浦和駅下車。西口から徒歩7分。
- 車利用/東北自動車道(浦和出口から9km)、首都高5号池袋線・埼玉大宮線(浦和南出口から4km)、外環自動車道(三郷方面より外環浦和出口から5km、大泉方面より戸田西出口から7km)。当ビル地下の公営駐車場(有料)をご利用ください。

うらわ美術館
URAWA ART MUSEUM

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-5-1 浦和センチュリーシティ 3F
TEL: 048-827-3215 FAX: 048-834-4327 <http://www.city.saitama.jp/urawa-art-museum/>